

第12回日本モビリティ・マネジメント会議（福岡）
プログラム概要

2017/6/28 時点

1日目（7月28日（金））

10:00～ 12:00	<p>開催地企画</p> <p>「九州のエリアマネジメントとMM戦略」</p> <p>○講演（40分） 清水 信彦（西日本鉄道株式会社 上席執行役員 自動車事業本部長、We Love 天神協議会 前理事長） 「天神・博多のエリアマネジメントとモビリティ」</p> <p>○パネルディスカッション（80分） 「エリアマネジメントとモビリティ」 コーディネーター：坂井 猛（九州大学大学院 教授） パネリスト：清水 信彦（西日本鉄道株式会社 上席執行役員 自動車事業本部長） 中嶋 敬介（博多まちづくり推進協議会事務局長、JR九州事業開発本部企画部担当部長） 守田 剛（福岡市住宅都市局都市計画部長） 八尋 和郎（(公財)九州経済調査協会事業開発部長 兼 BIZCOLI 館長）</p>
13:00～ 14:35	<p>オープニングセッション</p> <p>司会：宇野 昭弘（(株) ケーシーエス）</p> <p>○開会挨拶（13:00-13:05, 5分） 藤井 聡（JCOMM 代表理事、京都大学 教授）</p> <p>○祝辞（13:05-13:15, 10分） 佐々木 良（国土交通省 九州運輸局 局長）</p> <p>○特別講演（13:15-14:15, 60分） 坂井 猛（九州大学大学院 教授） 「九州福岡が目指すゲートウェイの景」</p> <p>○JCOMM賞授賞式（14:15-14:35, 20分） ・マネジメント賞（1件） ・プロジェクト賞（2件） ・デザイン賞（2件） ・技術賞（1件）</p>
14:35～ 14:40	(休憩)
14:40～ 16:00	ポスター発表A・口頭発表ツール展示
16:00～ 18:00	<p>企画セッション「公共交通のリスクマネジメント」</p> <p>コーディネーター：溝上 章志（熊本大学大学院先端科学研究部 教授） 情報提供 本田 和久（国土交通省九州運輸局交通政策部 部長） 中島 英明（九州旅客鉄道（株）新幹線部工務課 課長） 河合 賢一（九州産交バス株式会社 取締役・管理本部長） 若菜 千穂（NPO 法人いわて地域づくり支援センター 事務局長）</p>
18:00～ 18:30	(移動)
18:30～ 20:00	意見交換会

2日目（7月29日（土））

9:00～10:00	口頭発表 1 「教育・成長と MM」
10:00～ 10:10	(休憩・レイアウト変更)
10:10～ 12:00	企画セッション 「モビリティ・マネジメントの担い手を育む」 コーディネーター：原 文宏 ((一社) 北海道開発技術センター理事) 情報提供者： 本田豊 (NPO 法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾 (兵庫県)) 大井尚司 (Q サポネット世話人 (大分大学経済学部准教授)) 高山純一 (K. cat 代表 (金沢大学理工研究域環境デザイン学系教授)) 伊地知恭右 (NPO 法人まちもびデザイン事務局長 ((一社) 北海道開発技術センター))
12:00～ 13:10	休憩・昼食
12:00～ 12:30	JCOMM 総会
13:10～ 14:30	ポスター発表 B、口頭発表ツール展示
14:30～ 15:30	口頭発表 2 「地域課題に挑む MM」
15:30～ 15:45	クロージングセッション 主催者挨拶・次回開催地挨拶

第12回日本モビリティ・マネジメント会議 口頭発表・企画セッション・ポスター発表

(2017/6/28 時点)

●開催地企画

1 日目 (7月28日(金)) 10:40~12:00

パネルディスカッション「エリアマネジメントとモビリティ」

天神のソラリア計画から20年、九州新幹線全線開業3年(部分開業だと10年超)、とおうことで、九州、福岡の街づくり・エリアマネジメントが注目されている。天神については今後さらなる大規模なビルの再編再建を伴う計画が進められているほか、地下鉄七隈線の博多駅延伸、2019年のラグビーワールドカップ招致、増え続けるインバウンド対応など、天神・博多の街づくりは新たな展開に進むと想定される。

そこで、以下の点について議論を行い、日本の他都市が参考にできるよう、また天神・博多の街づくりが九州の発展にどうつながっていくのかを深めていく場としたい。

コーディネーター：坂井 猛 (九州大学大学院 教授)

パネリスト：清水 信彦 (西日本鉄道株式会社 上席執行役員自動車事業本部長)

中嶋 敬介 (博多まちづくり推進協議会事務局長、

JR 九州事業開発本部企画部担当部長)

守田 剛 (福岡市住宅都市局都市計画部長)

八尋 和郎 ((公財)九州経済調査協会事業開発部長兼 BIZCOLI 館長)

※タイムテーブル、セッションタイトル等は変更の可能性があります

●企画セッション・口頭発表セッション

1日目（7月28日(金)）

●講演：「九州福岡が目指すゲートウェイの景」 13:13~14:15

九州福岡は、古来より我が国の大陸に向けた玄関口としての位置にありました。福岡市は、20世紀後半に工業都市ではなく商業都市への道を選択し、アジアの拠点都市となることを目標に掲げ、そのための港湾、交通、公共施設等のインフラづくりに邁進し、順調に人口も増加して成長し、人口減少下の日本において、現在も人口増を続けている珍しい都市のひとつとなっています。しかしながら、それもやがて減少に転じることが予測されており、人口増とその後の人口減の双方をにらんだ都市づくりとその持続可能性が問われています。福岡市とその周辺都市を含む福岡都市圏が抱えている様々な課題を取り上げて整理するとともに、福岡市天神、博多におけるエリアマネジメント戦略や取り組みに関する議論をふまえ、これからの九州、日本において福岡都市圏が貢献できる役割や立ち位置、それに必要な都市の諸機能を維持し更新していくこと等について展望したいと思えます。

講演：坂井 猛（九州大学 大学院人間環境学府・工学部建築学科 教授）

※タイムテーブル、セッションタイトル等は変更の可能性があります

●企画セッション① 16:00~18:00

「公共交通のリスクマネジメント」

平成28年4月に発生した熊本地震は、九州新幹線の脱線や高速道路の断絶など、地域間輸送に大きな被害をもたらしました。復旧作業は予想を上回る速さで進んだものの、支援物資や支援者の輸送、地域経済などに大きな影響がありました。一方で車庫の被害や多くの道路区間での通行止めにより、路線バスや市電は運休せざるを得ないなど、域内輸送にも影響を及ぼしました。一般道路での慢性的渋滞のために、地震直後だけでなく、復旧の過程でもバス輸送は遅延が続き、一年が経過した現在でも需要が元に回復しないなどの影響が続いています。

本企画セッションでは、熊本地震直後の公共交通の被害把握と復旧方策にイニシアチブを発揮した国土交通省九州運輸局のリスクマネジメント方策を、JR九州による九州新幹線の脱線の状況と復旧プロセスを、九州産交バスによる路線バス運行の復旧経緯と熊本地震によって顕在化した地方バス輸送事業のリスクに関する課題を、岩手県で地域づくり支援を行なっているNPO法人より東北大震災後の公共交通の復旧の経験や課題について報告を受けます。その後、災害に備えた公共交通機関のリスク管理のあり方と需要回復のための方策などについて議論します。

コーディネーター：溝上 章志（熊本大学大学院先端科学研究部 教授）

情報提供者：本田 和久（国土交通省九州運輸局交通政策部 部長）

中島 英明（九州旅客鉄道（株）新幹線部工務課 課長）

河合 賢一（九州産交バス株式会社 取締役・管理本部長）

若菜 千穂（NPO法人いわて地域づくり支援センター事務局長）

※タイムテーブル、セッションタイトル等は変更の可能性があります

●企画セッション・口頭セッション

2日目（7月29日(土)）

●口頭発表1 9:00~10:00

「教育・成長とMM」

モビリティ・マネジメントの適用対象は、子どもから高齢者まで広がってきています。地域にとって望ましいモビリティを実現し、それを長期的に持続させるためには、様々な主体に働きかけ、そして主体的な行動へと繋げていくことが不可欠です。本セッションでは、多様なライフステージで展開されるMMに着目して話題提供をいただきます。話題提供を通じて、今後のMMの展開の仕方を探っていければと考えています。

0-1	大野悠貴	弘南バス株式会社	子どもの成長過程に合わせた交通事業者によるMM教育プログラムの企画と実践 ～平成28年度弘南バス「バスがらすプロジェクト」について～
0-2	福井のり子	株式会社 バイタルリード	中山間地域におけるまちづくりマネジメントの取り組みとその効果～個人とコミュニティの成長プロセスに着目して～
0-3	谷口綾子	筑波大学大学院 システム情報工学 研究科	幼少期の生活環境と成人後の「大衆性」との関連分析

※タイムテーブル、セッションタイトル等は変更の可能性がります

●企画セッション①

「モビリティ・マネジメントの担い手を育む」 16:00~18:00

効果的なモビリティ・マネジメント（MM）が継続的に各地で実施されるためには、その担い手が必要です。ですが、MMに携わる人の中には、それぞれの地域で孤軍奮闘し、悩みを抱える人も少なくありません。一方で、MM・交通まちづくりに取り組む人々が集まり、学び合うことで、課題を共有して解決の方途を探るとともに、持続的なまちの発展に向けてサポートしあう体制を構築しようとしている取り組みもあります。

本企画セッションでは、MM・交通まちづくりに携わる者の学びの現場の様子を紹介してもらい、現場でつまづきやすいこと、学びに効果的な取り組みや工夫、課題や取り組んでみたいことを参加者と共有したいと考えています。

コーディネーター：

原文宏（（一社）北海道開発技術センター理事）

情報提供者：

本田豊（NPO法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾（兵庫県））

大井尚司（Qサポネット世話人（大分大学経済学部准教授））

高山純一（K.cat代表（金沢大学理工研究域環境デザイン学系教授））

伊地知恭右（NPO法人まちもびデザイン事務局長（（一社）北海道開発技術センター））

※タイムテーブル、セッションタイトル等は変更の可能性がります

●口頭発表2 14:30~15:30

「地域課題に挑むMM」

交通やモビリティを取り巻く環境も大きく変化し、そして社会が直面する諸問題も多様化してきています。モビリティ・マネジメントが、「社会にも個人にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーション施策」という点では、公共交通利用促進や渋滞対策のみならず、様々な諸問題を解決しうる可能性を秘めています。本セッションでは、MMを延長したチャレンジングな取り組みについて、話題提供をいただきます。話題提供を通じて、MMの新たな可能性を探っていければと考えています。

0-4	東徹	(一社)システム科学研究所	京都市中京区における防犯MM ～「つくろう・安心・中京区」大作戦～
0-5	伊地知恭右	(一社)北海道開発技術センター	行政とバス事業者の連携によるバス運転手確保への挑戦
0-6	大島正彦	JR可部線利用促進同盟会	JR廃止路線の復活に向けた住民主体の取り組み

※タイムテーブル、セッションタイトル等は変更の可能性があります

●ポスター発表A

1日目(7月28日(金)) 14:40~16:00

NO.	発表者	所属	タイトル
PA-01	長森 貴弘	富山市都市整備部	富山市における小学生への交通環境学習(のりもの語り教育)の取り組みについて
PA-02	藤村 美月	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	バス車内のマナー啓発コミュニケーションと効果検証—筑波大学循環バスを対象として—
PA-03	永見正行	TMO	交通ゲームの開発と実践概要について
PA-04	佐々木 洋典	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	国民健康保険特定保健指導におけるモビリティ・マネジメント—健康福祉部署と都市交通部署の連携によるプログラム—
PA-05	加藤 透	公益財団法人豊田都市交通研究所	高齢者向け豊田エコ交通出前教室の開発
PA-06	増子 翔太	株式会社ケー・シー・エス東北支社	鉄道駅周辺の地域特性を活かしたモビリティ・マネジメント事業の展開~もりおか総合交通戦略における3年間の取組~
PA-07	岡本 英晃	公益財団法人交通 エコロジー・モビリティ財団	全国におけるM教育の実施状況や課題について
PA-08	飯野 公央	島根大学法文学部	松江「まち歩きバスマップ」の制作と効果の検証~学生主体のまち歩き・バス利用促進MMプロジェクト~
PA-09	神田 佑亮	呉工業高等専門学校	地域のリソースを有効活用した持続可能なMMの構築~地域特性に応じたMM手法の試行~
PA-10	矢内 克志	京都市都市計画局 歩くまち京都推進室	小学校における「歩くまち・京都」プロジェクト~モビリティ・マネジメント教育の継続的・広域的展開に向けて~
PA-11	田原 香織	仙台市都市整備局総合交通政策部 公共交通推進課	仙台市における「せんだいスマート」の取組
PA-12	佐々木 健市	札幌市まちづくり政策局 総合交通計画部	札幌市内全小学校への拡大的展開を見据えたM教育の実践的取組み
PA-13	間地信夫	パーク24株式会社モビリティ研究所	福岡市交通局発行の交通ICカード「はやかけん」を使った全自動パーク&ライド
PA-14	保坂 富士雄	秦野市都市部公共交通推進課	市内全小学校(13校)での小学生向けモビリティ・マネジメントの普及展開・深度化について
PA-15	中嶋 清則	京都府建設交通部交通政策課	中山間地域におけるICTを活用した移動需要の創出
PA-16	宮木 祐任	一般財団法人計量計画研究所 都市・地域研究室	公共交通利便性の高い地域における学校教育MMの実施効果の計測~さいたま市を対象として~
PA-17	青沼 直弥	山梨県庁	地域の交通環境が高齢者の免許返納に与える影響
PA-18	大田 嘉一郎	大分大学経済学部経営システム学科 交通論研究室	大分県内における観光客の流動を促進するための交通体系整備の課題—大分空港における観光行動パターンの聞き取り調査からの考察—
PA-19	田中 徳人	宇陀市企画財政部企画課	宇陀市内におけるMMによる地域公共交通に対する意識の醸成・利用促進に向けた取組みについて
PA-20	井上 学	平安女学院大学国際観光学部	「バス旅しようご」キャンペーンにおける販売プロモーションとモデルルート提案による観光利用者の特性
PA-21	城平 徹	株式会社ケー・シー・エス東京支社	新路線バスの実証運行及び利用促進の推進による地域公共交通の再構築に向けた取り組み
PA-22	新森 紀子	一般社団法人 北海道開発技術センター	帯広市における小学校を対象とした交通環境学習の取組み
PA-23	児玉宜治	京都市交通局自動車部運輸課	京都市交通局(市バス)路線沿線における地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充について~最近の取組状況とバスのご利用状況~
PA-24	中津留 幸紀	川西市みどり土木部 道路公園室道路整備課	ガリバーマップから始まるM教育の縁
PA-25	西尾 和也	名城大学大学院理工学研究科 社会基盤デザイン工学専攻	複数回参加を促すワークショップの工夫とコミュニティバス利用意向への効果~岐阜県美濃加茂市をケーススタディとして~
PA-26	名倉 陽太	山梨大学大学院工学専攻	バスロケーションの長期間保存データを用いた到着予想時刻のリアルタイムサービスに向けた基礎的分析
PA-27	林 英樹	西日本高速道路株式会社 四国支社総務企画部事業開発課	鳴門西パーキングエリア地域連携推進協議会による高速道路施設のコミュニティ連携
PA-28	野村 文彦	計画課(課長)/国土交通省九州地方整備局 福岡国道事務所	福岡都市圏における市民参加型MM「まち歩かんね、クルマ減らさんね運動」の取組紹介
PA-29	稲永 健太郎	九州産業大学	公共交通オープンデータ形式準拠DBを備えたコミュニティバス運行管理支援システムの開発
PA-30	石川 功	沖縄職業能力開発大学校 生産電子情報システム技術科	遅延状況、混雑状況の提供を主目的とした、バス運行情報システムの導入

●ポスター発表B

2日目(7月29日(土)) 13:10~14:30

NO.	発表者	所属	タイトル
PB-01	岩崎裕直	公益財団法人仙台市建設公社	楽しい青葉山・八木山フットパスづくり～鉄総利用促進MMから交通まちづくり推進へ～
PB-02	秋津大介	東広島市健康福祉部高齢者支援課	東広島市におけるモビリティ・マネジメントの取組み
PB-03	村上ひとみ	山口大学大学院創成科学研究科	自転車左側通行ルールと自転車レーン理解を促す道路模型を用いた安全啓蒙の取組み
PB-04	吉永文彦	札幌市まちづくり政策局 総合交通計画部	札幌市清田区の地域住民が利用者目線で考え実践した公共交通利用促進の取組み
PB-05	佐々木洋典	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	市役所職員を対象とした健康モビリティ・マネジメントの効果分析
PB-06	関陽水	(株)アルメックVPI	ベトナムにおけるバス利用促進MM-バイク依存からの脱却に向けて～
PB-07	山室良徳	中央復建コンサルタンツ(株) 計画系部門	産官学民の連携・協働による、地域にふさわしい、住民目線で身の丈にあった持続可能なおでかけ交通「ぐるっと生瀬」の運行とまちづくり
PB-08	矢内克志	京都市都市計画局 歩くまち京都推進室	交通事業者と連携した地域特化型モビリティマネジメントの展開
PB-09	東徹	一般社団法人システム科学研究所	NPO法人再生塾による10年間にわたる総合的な交通政策を担う人材育成と支援の取組み
PB-10	伊地知恭右	一般社団法人 北海道開発技術センター	「気」が集まればなんとかなる!大網線復活への序章
PB-11	芝崎拓	一般社団法人 北海道開発技術センター調査研究部	小学校と連携したバスの乗り方体験教室の実施
PB-12	野田宏治	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科	高専生による小学生を対象としたエコ交通出前授業の構築と評価
PB-13	秋田 基行	パーク24株式会社モビリティ 研究所	京都市における水素エネルギーの普及に向けた取組～燃料電池自動車「ミライ」を活用した有料カーシェアリング事業～
PB-14	兒玉崇	計画部調査課/ 阪神高速道路株式会社	経路検索サービスを活用した渋滞区間の迂回訴求～抜け道探検隊～
PB-15	平間尚夏	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	新たなモビリティ・マネジメント:「外出MM」と「活動MM」の可能性—活動格差社会の要因分析から—
PB-16	川本義海	福井大学学術研究院工学系部門	福井県におけるクルマに頼り過ぎない交通まちづくりの実践
PB-17	赤穴真理	(株)バイタルロード	公共交通の役割分担による乗継の壁をカバーする公共交通コンシェルジュと利用促進策
PB-18	和田庄平	国土交通省総合政策局交通計画課	経路検索におけるバス情報の充実に向けた取組
PB-19	山本隆志	国土交通省北海道運輸局 交通政策部交通企画課	商業施設と連携したバス待ち環境の改善プロジェクト
PB-20	児玉健	京都バス株式会社	外国人利用者に向けた公共交通の案内情報の共通化を目指した取組み
PB-21	大井元揮	(一社)北海道開発技術センター	バスロケーションシステムを活用したモビリティ・マネジメントの実施
PB-22	三上和宏	八千代エンジニアリング株式会社 大阪支店	クルマ中心の山梨県における“エコ通勤”への挑戦
PB-23	司隆	慶応義塾大学	郊外キャンパスの路線バスの利用キャパシティの解明とその分散策の共創
PB-24	岩里泰幸	阪神高速道路(株) 保全交通部交通企画課	阪神高速道路におけるオープンデータ化による事故リスクマネジメントの取組み
PB-25	阿部幸記	大分大学経済学部経営システム学科 交通論研究室	地域人材による地域主導の公共交通利用促進に関する研究(第3弾)—地元高校生と地元大学生の協働による「大人の社会見学」事業の新たな展開に向けて—
PB-26	太田恒平	ナビタイムジャパンメディア事業部	NAV TIMEを用いた河津桜渋滞シーズンの伊豆スカイライン利用促進～ブローブ渋滞予測と経路検索を用いた交通需要マネジメント～
PB-27	道木健	株式会社新日本コンサルタント	ビッグデータを活用した移動履歴調査と地元企業との協働によるバス路線の官民共同運行
PB-28	若山裕一	ITSアライアンス株式会社	《おでサポ》おでかけサポートクリエイターズ～バスデータの標準化と連携された多様な情報提供ツールの創造～
PB-29	洲脇 祐子	西日本鉄道(株)自動車事業本部	柏原三丁目地区への路線バス乗り入れと「バス友」の誕生

●口頭発表ツール展示

NO.	発表者	所属	タイトル
O-01	大野悠貴	弘南バス株式会社	子どもの成長過程に合わせた交通事業者によるMM教育プログラムの企画と実践 ～平成28年度弘南バス「バスぶらぶプロジェクト」について～
O-04	東徹	(一社)システム科学研究所	京都市中京区における防犯MM～「つくろう・安心・中京区」大作戦～
O-05	伊地知 恭右	一般社団法人 北海道開発技術センター	行政とバス事業者の連携によるバス運転手確保への挑戦